

<Q&A 要旨>

Q：議決権行使の方法がややこしすぎるのはなぜですか。他社の議決権行使書のインターネット投票は QR コードを読み取るだけでログインできましたが、貴社のは ID、パスワードを入力しなければならず面倒です。セキュリティーを担保してユーザーフレンドリーを考慮し改善はできないのですか。

A：インターネット投票が年々増加する中、QR コードの読み取りで ID、パスワードまで自動入力をされるというケースがあることは認識をしています。しかしながら、私たちが検討した結果、やはり ID、パスワードは非常に重要なため、これを自動入力するということが非常にセキュリティー上の問題をはらんでいると考えています。昨年ご指摘をいただきましたハイフンの入力などは、今年は改良していますので、またご意見をもとに、セキュリティーを保ちながら、簡易に参加・出席できる方法を考慮して参ります。

Q：議決権行使システム内製化により抑制された社外流出費用はどの程度でしょうか。

A：以前から、ブロックチェーンを使った議決権行使システムを内製しているため、抑制された外流出費用は約 60 万円です。こちらがインターネットの投票システム利用料になりますが、当社は流出費用を抑制するためにこのシステムを開発しているわけではなく、ブロックチェーン技術の研究開発および今後の世の中で使われる様々な投票システムに向けた開発の一環として開発を行っています。

Q：デザイン事業はコロナにより受注減少とありますが、コロナが落ち着き始めている現在の受注状況と今後の見通しについてご説明願います。

A：デザイン事業は、年度で見ると受注が減少していますが、上半期と下半期で見ると、下半期は盛り返しています。これはコロナ禍への対応として顧客企業のターゲットを変更し、特に米国において、顧客企業を IT 企業へシフトしているためです。今後も受注は増加をしていくという見込みで計画をしています。

Q：Gorilla Technology Inc. (以下、Gorilla 社) の NASDAQ 上場時期と上場の可否の判断について教えてください。

A：Gorilla 社の上場時期および可否については、上場申請を既に行っていますので、米国証券取引委員会 (SEC) の判断になるという状況です。(6 月 25 日時点) 最新の状況は SEC のサイトで公開されておりますが、7 月 11 日に上場 (SPAC 合併) のための臨時株主総会を開催するという招集通知が出ています。ここには、臨時株主総会で可決 (合併の承認) されれば翌営業日、つまり 7 月 12 日から NASDAQ でトレード (取引) がされるということが記載されています。

Q : 株価を常に意識して事業経営をしていますか。さらに今から少しでも株価に影響すべく策を講じて事業経営をしていくつもりはありますか。自信はありますか。

A : 単刀直入に一言で言えば「はい」という答えとなります。ただ私どもが意識しているのは株価そのものというよりも企業価値を上げていくことです。

これはほぼ時価総額とイコールになっていきますので、時価総額と企業価値を上げていく。そのために業績を上げていく。もしくは、将来への期待を上げていく。その実績を踏んでいくといったようなこととなります。

私たちは現在、中期経営計画を立てていますが、これを実行し、そして自分たちの力と、そして私たちが生み出す価値を上げていくことで企業価値が上がる。ひいては株価が上がる、という関連があると考えています。

Q : 株価は 1500 円以上あってもいいと思いますが、現株価の原因は何でしょうか。株価はもっと上がらないのでしょうか。

A : 株価そのものは発行体である私たちではなくて、市場が決めるというのですが、私自身は以前から申し上げておりますとおり、今の株価は安いと考えています。その根拠は、以前もっと高い株価をつけていた時よりも、より大きな価値つまり売上、そして利益を出していますし、さらに私たちの製品もより強くなっているということから考えますと、相対的に株価が上がっていいと考えています。また、どのぐらいの株価を目指すのかというご質問については、さすがに目標株価は、私から申し上げるわけにはいきませんが、元々時価総額そのものは、200 億、500 億そして 1,000 億を長期的には目指しています。1 日も早くそのような桁数になっていくということを目指せるようにしていきたいと考えています。

Q : 株価を上げることで株主に還元すると毎回おっしゃられておりますが、ここ数年この辺の株価を行ったり来たりで変わっていません。上げられない理由を教えてください。それとも今の経営陣ではここが限界なのでしょう。

A : 株価を上げることで株主に還元するというよりは、現在私たちが出している利益を実際に投資してそのリターンが株主に戻るという流れを考えています。実際に、配当に回すよりも、それを新しい製品、研究開発や投資などにつぎ込むことで、より売上や利益が上がります。特に今回の決算などではそれをご理解いただけるような内容だったのではないかと考えています。

株価そのものは、私たちの業績や将来性だけでなく市場環境に影響を受けますので、私自身が何か申し上げることはありません。しかしながら、業績や将来性をしっかり積み上げていくことで判断をいただけると考えています。

引き続きこちらに関しては今の経営陣で尽力してまいります。

Q : 今後はどのくらいの株価を目指していきますか。

A : 先ほどの回答と重複しておりますが、私たち自身で目標の株価というものはございません。企業価値そのものはもっと上を目指しています。現在時価総額 200 億前後といったところですが、それをさらに 500 億、1,000 億を目指してまいります。

Q : 事業拡大および売上向上に伴う役員を増員する予定はありますか。

A : 当社は会社法上の役員取締役及び監査役に関して言いますと、皆様に議案にてお諮りしています取締役 5 名、そして現任の監査役 3 名です。現在東証で求められているジェンダーや国籍などを含めたダイバーシティを重視し、過半数が社外取締役ですので、現時点でこの役員の数を増やさなければならないような状況は想定をしていません。

一方で執行役員については、事業拡大や売上の向上に伴ってそのカバーする領域が広がりますので、必要に応じて増員をしていこうと考えています。

Q : 配当性向の見直しについて、業績に応じて上げることは考えていますか。

A : 配当性向に関しては、私たちは、意識はしておりますが、実際には配当性向以上に安定配当というものを重視しています。結果として今回は 4.5 円ということで配当させていただきました。業績に応じて上げるということと言いますと、アステリア株式会社単体の余剰金が原資になりますので、これが大幅に増加をする、例えば今回の出資の利益というものが現金化され、それが本社に入るようなことがあれば、株主の皆様への還元というものを検討していきたいと考えています。

Q : This Place Limited (以下、This Place 社) の売上は回復しましたか

A : This Place 社に関しましては、2022 年 3 月期の業績をご報告しましたとおり、残念ながら前年割れという結果となっております。ただ上半期と下半期で見ますと、下半期は大きく伸びるという結果となっております。またこの伸びた要因は米国での新しい顧客の獲得、特にコロナの影響を受けない IT 系の企業の獲得によるもので、今年度もさらに増えていくと見込んでいます。

Q : 当株主総会は完全バーチャルで実施されていますが、バーチャル株主総会を実施されている企業は何社くらいですか。またバーチャル株主総会の引き合い及び受注はどのくらいありますか。

A : 当社は本日、場所の定めのない株主総会 (完全バーチャル株主総会) を実施していますが、株式取り扱いの代行をされています信託銀行からの情報ですと、この 6 月で十数社のみと聞いています。

ライブ配信を実施する企業は増加していますが、場所の定めのない株主総会とは異なります。場所の定めのない株主総会の開催には、定款変更及び法律への対応、加えて様々な準備等も必要になりますので、なかなか突然実施される状況にはなっていないのが現状です。

ただ、より幅広い地域や、移動に支障のある方々も株主総会に参加できることから、当社のみならず経済産業省なども推進していますので、これから少しずつ普及していくことになるかと思えます。場所を定めのない株主総会向けのシステムの受注状況は、現時点（6月25日時点）で、当社以外でこのブロックチェーン技術を基盤とした総会を実施している企業はございません。ただ引き合いについては、先ほど私が申し上げた場所の定めのない株主総会を実施されている企業よりは多く、検討されている企業は多いというような状況です。私たち自身もこの場所の定めのない株主総会がより簡単に、そして確実に行われるように、技術開発やサービスの提供形態なども検討していきたいと考えています。

Q : Asteria Vision Fund (以下、AVF) について、公開されていない出資先 1 社とは世界的に有名な企業なののでしょうか。それとも無名なスタートアップ企業なののでしょうか。

A : AVF の出資先 1 社は、契約により概要は非公開となっています。SpaceX 社のように多くの人知っている社名ではないですが、誰も知らないような企業でもない、その中間くらいでしょうか。契約上、私から申し上げられることは、知る人ぞ知る企業ということです。

Q : 中期経営計画の今現在の進捗状況は、平野社長の想定より良いですか、悪いですかまたは、ほぼ想定どおりですか。This Place 社は最低の想定で、AVF は除外しての数字とのことですが、トップラインの伸び率、Gravio、Platio の売上を見ると達成が不安になります。

A : 現在までの事業報告に関するところについてお答えいたします。現在の進捗状況は、今朝発表などでも触れておりますが、ほぼ想定範囲内です。This Place 社に関しては、売上減にならないことを目指していましたが、残念ながら昨年度は売上減となってしまいました。しかしながらソフトウェア事業、特にライセンスが想定以上に伸びているため、差し引きで想定範囲内ということになります。数字については AVF の利益の部分は EBITDA で出していますので、除外された数値目標になっています。トップラインに関しては、Platio などで新しい製品ラインを増やしているように、製品ラインナップの追加、技術の買収も考慮し、このような内容を加えてこの第 3 カ年の数値を計算しています。

Q : 株主総会視聴のページと議決権行使の画面は、同じページのほうが、利便性が良いと感じましたが、あえて別の URL にしたのは何か理由がありますか。アステリアの Web サイト上で株主総会のお知らせのページに議決権行使サイトの案内がないのが残念です。YouTube Live と議決権行使サイトが並行することが分かりにくいです。

A : 技術的には私たちのブロックチェーンを使った議決権行使サイトは様々な配信ツールと組み合わせることができますが、組み合わせを考えて現在は独立した形式をとっています。ただ、ご指摘のとおり、当社の IR サイトからの連携がない点は改善可能ですので、ご意見を参考に検討させていただきます。

Q : アステリアの株主になって十数年たちます。素晴らしい業績なのに、まっとうな株価ではないと思います。ソフトバンクグループの総会を拝見しましたが、孫さんのように株価を意識してほしいと願っています。プライム市場、条件時価総額 250 億円と言われましたが、今の時価総額なら残留していなかったと思います。時価総額を上げる具体的対策はありますか。

A : 私たち自身、この時価総額を意識していますが、株価はなかなか私たちが考えるとおりになりません。私自身は安いと考えていますので、株主還元および市場への対策というものは、機動的に常に検討していきたいと考えています。まずは、業績をさらに上げ、そして利益も上げ、将来性に対する信頼を上げていく必要があると思いますので、こういったことに尽力をしつつ、必要に応じた株価対策を検討したいと考えております。

以上